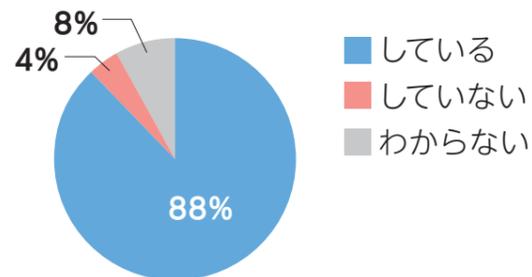


シェアリング

～わかちあい～

⑥家でのお手伝いをしているかどうか



⑦⑥でしている場合には、何をしているか（複数回答可）

- 1位 食事の準備・片づけ 10票
- 2位 風呂掃除 8票
- 3位 洗濯物を干す・たたむ 4票



編集委員コメント

今回の調査はイベントの合間に行っていたこともあり、42名全員にお手伝いの有無を訊くことはできませんでした。一部の回答結果ではありますが、編集委員が予想していたよりも多くの小学生が家でお手伝いをしていることが分かりました。また、お手伝いについて性別の違いはないように見受けられます。編集委員の中では「昔と比べてお手伝いをする子どもが増えていると思う」という意見が出ました。これは共働き世帯が増えたことや祖父母が同居していないことなどが関係しているのかもしれませんが。

小学生・保護者の皆様、調査へのご協力ありがとうございました！

好きなものを好きと言えること ～私の冬の風物詩～

編集委員の小林です。皆さんは冬に楽しみにしていることはありますか？私の冬の楽しみはウルトラマンです。ウルトラマンシリーズは7月に放送開始し1月に完結するのが例年の流れで今年も1月にウルトラマンアークが完結しました。また、完結に先駆けて年末年始に開催されているのがウルトラマンニューイヤーフェスティバルで、ヒーローショーを中心に1日中ウルトラマンの世界を楽しむことのできるイベントです。ウルトラマンと聞くと男の子の憧れというイメージが強いですが、実は近年では女性ファンが急激に増えています。実際に会場では約半分の来場者が女性でした。

趣味には周りの環境がとても大きな影響を与えていると感じています。その趣味は本当に本人がやりたかったことなのでしょう。性別や周囲の目を理由にして本当にやりたい事、好きなものを避けていたのではないのでしょうか。周りの意見や自分の中のイメージで判断するのではなく、実際に自分の目で見て確認すれば自分の味方は必ず見つかります。自分の中の好きだと思った気持ちを大切にすることは生活を豊かにすることでもあります。年齢、性別は忘れて本当に好きな趣味を探してみませんか。

ご意見・ご感想をお寄せください

男女共同参画情報紙「シェアリング」をお読みいただきありがとうございました。本情報紙は、2月と8月の年2回発行しています。より充実した情報紙を作成していくため、皆様からのご意見・ご感想を下記事務局までお聞かせください。3月末までにお送りいただいた方に粗品をプレゼントします。

発行・事務局

下野市総合政策部市民協働推進課

〒329-0492 下野市笹原 26 番地 ☎0285-32-8887 📠0285-32-8606

✉shiminkyoudousuishin@city.shimotsuke.lg.jp

企画・編集

下野市男女共同参画情報紙編集委員会（小林優作 / 高橋奏音 / 渡邊樹里 / 高瀬容子）



何色が見えますか？

下野市のホームページから「シェアリング」バックナンバーがご覧いただけます。



タイトル由来 みんなが“わかちあう”大切さを持って、男女が協力しながら、男女共同参画社会をつくっていったらとの願いが込められています。

性別とイメージ

2019年8月号のシェアリングでは、「これって「あたりまえ」？」と題して、ジェンダーにかかわる問題を扱いました。その中には、「男の子の色？女の子の色？」として、ジェンダーごとに色のイメージが与えられているというお話を取り上げました。

それから5年半が経ちましたが、ジェンダーごとに対する色のイメージは変化したのでしょうか。また編集委員の話し合いでは、「保育士や幼稚園教諭は子どもたちの名前を呼ぶときに、家で呼ばれているあだ名か「さん付け」で呼んでいる」こと、「大学生が行う教育実習では、児童・生徒を必ず「さん付け」で呼ぶよう指導されている」ことなどが共有されました。

この話し合いから、日本全体ではまだまだジェンダー不平等が叫ばれる現在でも、小学生までの子どもたちはジェンダー平等に近い状態にあるのではないかと予想しました。

そこで今回は小学生に対してインタビューを実行し、私たち編集委員の予想と実態はどのように異なるのか、未来の世代である小学生はジェンダー平等に近い状態にあるのか、について調査しました。

男の子の色？女の子の色？

レストランで働いています。
小さいお子様用に、水色とピンク色の取り分け皿を用意しています。ある男の子が来店した際、いつもと同じように取り分け皿をもっていきまして。すると、お母さんから「どうしてピンクなのですか。この子は男の子です。違う色にしてください」と言われました。その日はお店が混雑していたこともありピンク色のお皿しか残っていなかったので「申し訳ございません。この色のお皿しかお出しできるものがございません」とお伝えしました。
「男の子は水色で、女の子はピンク色」というイメージが強いのかな？

2019年8月号



調査日・場所

- 10月20日 下野市市民活動センター
しもぶらフェスタ“2024”
- 11月3日 吹奏楽フェスティバルinグリムの森
- 11月某日 下野市内の編集委員自宅周辺

質問事項

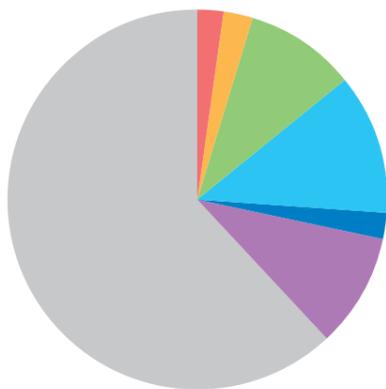
- ①学年
- ②性別（自称、あるいは格好から判断）
- ③好きな色
- ④ランドセルの色
- ⑤④に決めた時の家族の反応
- ⑥家でのお手伝いをしているかどうか
- ⑦⑥でしている場合には、何をしているか

調査結果

小学生42名にインタビューを行いました。

①学年

1年生	1名
2年生	1名
3年生	4名
4年生	5名
5年生	1名
6年生	4名
不明※	26名
計	42名



②性別（自称、あるいは格好から判断）

男子 16名
女子 26名



※イベントの合間に行った調査では学年を訊くことができず、半分以上が不明となっています。

③好きな色（複数回答可・上位5位まで）

男子	1位	青	6票	女子	1位	水色	8票
	2位	水色	4票		2位	紫系(紫・薄紫)	6票
	3位	黒	3票		3位	白	4票
	//	黄色	3票		//	緑系(緑・エメラルドグリーン)	4票
	5位	赤	2票		5位	ピンク	3票
					//	黒	3票

④ランドセルの色

男子	1位	黒系	12名	女子	1位	紫系(紫・薄紫・ラベンダー)	8名
	2位 <td>青系(青・藍色)</td> <td>3名</td> <td></td> <td>2位 <td>ピンク</td> <td>5名</td> </td>	青系(青・藍色)	3名		2位 <td>ピンク</td> <td>5名</td>	ピンク	5名
	3位 <td>緑系(深緑)</td> <td>1名</td> <td></td> <td>3位 <td>水色</td> <td>3名</td> </td>	緑系(深緑)	1名		3位 <td>水色</td> <td>3名</td>	水色	3名
					//	赤系(赤・チェリー色)	3名
					//	茶色系(茶色・ピンクっぽい茶色・キャメル)	3名
					//	緑系(エメラルドグリーン・ミントグリーン)	3名
					7位	白系(パールホワイト)	1名

⑤④に決めた時の家族の反応

「似合ってるね」「良い色だね」など肯定する声が多く見られました。
また、他の色を薦める声もありました。

編集委員コメント



1.好きな色とランドセルの色

私たち編集委員は、好きな色とランドセルの色が一致しているのかを調べました。

- 回答をまとめると、
- 男子は、好きな色は青や水色が多く、ランドセルの色は黒系が多い
 - 女子は、好きな色は水色と紫系が多く、ランドセルの色はピンク系が多いという結果になりました。

個別の回答では、好きな色とランドセルの色が異なる回答も見られました。この調査では、ランドセルを選んだ時の経緯や当時の色の好みまでは分かりませんが、好きな色とランドセルの色が一致しないのは、家族や友達などの周りの影響があるのかもしれない。

2.保護者の意見

自分たちの好みや子どもに合うような色を薦めたり、男子には昔の名残から黒を薦めたりしている場合もあれば、子どもの意見を尊重し子どもの好きな色や個性を大切にしているという声もありました。

3.多様性

ランドセルのカラーバリエーションが豊富になったことで、性別関係なく多様な色を選べるようになっていくことが分かりました。

昔は「男子は黒」「女子は赤」などといったものが定番でしたが、最近では紫、茶色、エメラルドグリーン、白などの色も注目されているようです。

編集委員の中では「私が小学生だった頃は、クラスの子の約9割がピンクや赤を選んでいて、他の色はあまり見られなかった」といった意見が出ました。ランドセルの色は時代の価値観や子どもの好みが多く反映されていると感じました。